

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 **黎明**



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0099号
護國青年會議機関紙 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成24年12月14日

強く正しく美しい日本を取り戻そう！

3年前の9月16日、悪夢の左翼民主党政権が誕生し、鳩山内閣が発足した。総力を挙げて選挙戦を戦った当時の麻生太郎首相は、この長い選挙期間を「日本を考える8月」と命名して政権交代を煽るマスコミに真っ向から対抗した。しかし、その願いも虚しく国を憂えた国民の「貴重な一票」は、マスコミに誘導された所謂B層の「軽薄な一票」に呑み込まれてしまった。得票率では数ポイントの差でしかなかったが、現行の選挙制度は、この微差を途轍もない大差にまで増幅してしまった。夏休み最後の日、民主党大勝の衝撃は、日本列島を覆い尽くした。それは日本列島が日本人のものではなくなった瞬間だった。 編集人・戸出蒼流

無念を晴らす時が来た

多くの有能な議員が一敗地に塗れ、何の能力も無い、経験も無い、志も無ければ、誠実さも無い、初めから嘘を吐くつもりで、議員バッジを騙し取った連中が「国会議員のセンサー」と呼ばれることになった。開票が進んだ深夜、テレビから流れた「中川昭一落選」の速報が全てを象徴していた。

日本の、世界の経済的大混乱を收拾すべく、疲れた身体に鞭打って駆け回っていた安倍晋三の盟友・中川昭一財務相を、マスコミは「事実と異なる報道」によって、バッシングの上にはバッシングを重ねて辞職に追い込んだ。そしてあの夜、遂に一人の議員であることすら強奪されたのである。この時、中川の余命は僅かに一ヶ月と迫っていた。神のみぞ知る、人智の及ばぬ世界のこととはいえ、今でも腸が煮えくり返る。筋の通らぬ捏造報道で一方的に中川を断罪し、その職を奪い、その地位を奪い、揺らぐ命の灯にさ



え冷水を掛け続けた卑劣漢を絶対に許してはならない。あの時の無念を晴らす時が来た。今回の選挙の目的は「

日本奪還」であり、その先にあるのは「自主憲法制定」である。我々の崇高な志は、自由民主党総裁・安倍晋三によって具現化されようとしている。その素地を作り、奇跡の逆転勝利で安倍総裁実現へと導いたのは、早々に支援を公言した麻生太郎である。両者は共に、ネットの活動が、烏合の衆の憂さ晴らしではないことを熟知していた。それが今、他の政党より遙かに先んじて、ネットを有効活用している「新しい自民党」に繋がっているのだ。

詐欺師共は鉄槌を喰らわせろ

鳩山、菅、野田と3代続いた反日左翼政権は、変えてはならぬものに手を出し、変えねばならぬものを放置した。増税はしないと云って有権者を騙し、増税を唯一の成果として政権の幕を閉じようとしている。陣笠議員から閣僚まで当り前のように嘘を吐き続け、マスコミが咎めないことを楯に取り「答弁では嘘を吐いても良い」という閣議決定までしている。日本人の普通



の感性とは著しく懸け離れた蛆虫どもを、政権の座に就けたのも我々日本人である。マスコミに浸透している反日工作の餌食になったとはいえ、自らその首を絞め、そして今もなお締め続けているのだ。日本奪還の戦いは、日本人覚醒の戦いでもある。名前を変えればまだ騙せる、看板さえ変えれば何度でも騙せると信じて疑わない詐欺師どもに鉄槌を喰らわせ、抹殺させる戦いなのである、一寸待てその**第三極は元民主** 民主党を離党した元民主の連中は手を変え品を変え国民

の目を欺こうとしている。公示直前に駆け込み結党した未来の党の大部分は、元民主党小沢派である。これを潰さずして民主党を潰したことはない。

元民主は、小沢の傀儡である未来党だけでなく、名前を変えて何処にでも潜んでいる。

マスコミは自民党だけに派閥という言葉を使い、民主党のそれはグループや勉強会と称している。そして、民主党は派閥の無いクリーンな政党であると喧伝している。これが腐れマスコミの常套手段である。民主党の一連の離党騒動は、民主党こそが絶対に相容れることのない複数の組織を抱えた派閥政党であるということを実に物語っている。つまり、その派閥闘争の成れ果てが大量離党に繋がったということだ

未来の党の正体は裏民主



元民主党代表の小沢一郎（左写真）は、民主党を離党してから今日まで虎視眈々と復権のチャンスを探っていた。小沢は原発に異を唱える一派の受け皿として嘉田由紀子滋賀県知事（左写真）という軽くてパーな神輿を担ぎ、未来の党を結成したのである。つまり未来の党とは、



民主党小沢派が、軽い帽子を目深に被って顔を隠し、国民を欺

こうとしている正真正銘の裏民主党に他ならない。

小沢に担がれた超軽量神輿の嘉田の笑顔の裏側には驚くべき正体が隠されていた。

菅直人が首相だった時、民主党が「市民の党」という反日テロ組織に上納金を納めていたことが明らかにになり、大問題となつたことがある。市民の党には国際手配されている北朝鮮拉致容疑者の森順子と、よど号ハイジャック事件のリーダーである田宮高鷹の実子で、20年間北朝鮮でテロリストとしての教育を受けた森大志という男が深く関与している。あろうことか嘉田は、このテロ組織の支援を受けて、滋賀県知事に出馬し、当選したテロ知事である。

昨年11月、滋賀県大津市立皇子山中学校の2年生が、いじめを苦にして自宅マンションから転落死した事件は、記憶に新しいが、嘉田は、いじめグループの首謀者である小網健智の母親の小網美恵とは同じ町内に住み昵懇の間柄である。被害者の家族が出した被害届を3回も却下している。嘉田のように羊の面を被った悪党よりも、端から悪党面をしている小沢の方がマシなのかも知れない。

いずれにしても元民主の本質は、本家同様反日である。解散風に吹かれて、保身のためだけで、党名を変えて有権者を騙そうとしている不届き者の集団で

ある。有権者は3年前の愚行を繰り返してはならない。こんな奴等を一匹も逃がしてはならない。一匹を逃せば奴等は、十匹に増える。本家の殲滅は、当然のこととして、党名ロンダリングで、有権者を愚弄する元民主を許してはならない。これを許すことは、通名犯罪をそのまま放置し、黙認し続けるに等しい愚挙である。人の罪は、その名を変えた所で決して免れない、という当り前のことを奴等知らしめねばならない。

今回の総選挙は、我々の愛する日本を取り戻すための戦いであると共に、無念を晴らすことなく亡くなった真正保守の担い手であった中川昭一の弔い合戦である。ただ単に勝てばいいのではない、圧倒的に勝たねばならない戦いである。微差、僅差では3年間の民主党の悪政を承認したものと受け取られかねない。少なくとも連中は、そう主張するだろう。本体だけでなく党名ロンダリングを続ける残党も始末しなければ、日本の政界は浄化されない。

その1票が日本を取り戻す

選挙になると「党より人で選ぶ」という論理が、市中を闊歩し始めるが、重要議案には党議拘束がかかる国政選挙では、大きな誤りである。大切なことは候補者本人はもちろん、党首が如何に国家を捉えているか。如何に国民を愛しているか。如何

に誠実か。如何に私心がないか。それを問い、それに応える党首を選び、その党首の主張を実現させるために「党を選ば選挙」である。小々頼りない候補でも、情けない候補でも、怪しげな候補でも、党の主張が正しければ、それに従い、改善される可能性がある。党首の人格が高潔ならば党はやがて浄化される。

あなたの1票は、小さな1票ではない。あなたが日本人である限り、それは日本そのものを動かす1票である。それは日本を取り戻す1票である。大袈裟ではなく、あなたが日本そのものなのである。その1票を無駄にしないで頂きたい。あなた自身を無駄にしない為に。そして強く正しく美しい日本を取り戻す為に。

北朝鮮長距離ミサイル発射

北朝鮮が核兵器を搭載する能力を持つミサイル発射に成功した。言い換えれば、日本は北朝鮮の核ミサイルの攻撃範囲内に入ったということである。この北朝鮮の核ミサイルから日本国民の生命と財産を守る為に、わが国は高い費用をかけてミサイル迎撃システム網を作り上げて来たが、それを発動することなく、沖縄上空を飛ぶミサイルを見守るだけであった。野田政権は選挙期間中におけるこの北朝鮮のミサイル発射という恫喝に対して、これを迎撃する機会を放棄した。

北朝鮮のミサイル発射は、実際に核ミサイルが日本の何処にも飛んで来る状況になったということで、取りも直さず日本国民への恫喝である。故にもう話し合いもクソもない、速やかに憲法を改正し、北朝鮮によるミサイル発射の兆候が見られた場合は直ぐにでも先制攻撃して破壊する能力を持たなければならぬ。今こそ富国強兵を目指さなければ、日本民族は滅んでしまうだろう。停止している原発全てを再稼働させ、省エネ節電シフトを直ちにやめて、フル稼働状態に戻さねばならない。北朝鮮の核ミサイル基地を叩く攻撃能力を一日も早く備えるべきだ。当然、核武装も視野に入れなくてはならない。北朝鮮と同じ左翼思想を持つ、民主党を始め、共産党や社民党、極左を抱える日本未来の党は抹殺しなければならない。日本窮状を救うのは、自民党と日本維新の会だけだ。自民党と日本維新の会の躍進に期待する。

編集人

